

最近

# 出たおすすめの本

## ◆高橋美保先生が選んだ本



みみかきめいじん  
かがくいひろし  
講談社 2009年

絵がほのぼのとしていて優しく、メインキャラクターがユニークです。耳かき名人のひょうたん先生が、弟子

のひょうすけとともに、さまざまな相手に耳かきという「癒し」をしてあげ、感謝される話です。温かい人間関係づくりの大切さを伝えていきます。文章には、擬声語・擬態語がちりばめられ、文字の書き表し方が工夫・強調されています。本文で繰り返し返されることばを、子どもといっしょに声に出し、その響きを楽しみたくなる本です。



言葉はライブだ！  
内多勝康  
岩崎書店 2009年

音声言語のプロである筆者が、ことばとコミュニケーションについて、親近感のもてる文体で

綴っています。多くの失敗や経験を素直に受け止め、原因を確認し、アナウンサーとして成長していく姿に共感します。また、ニュースづくりの実際や情報など、メディア教育につながる重要な視点がわかりやすく書かれています。筆者の仕事に対するひたむきな姿勢も、子どもに参考にさせたいものです。

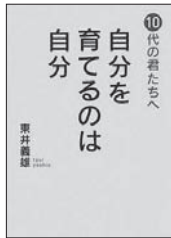
## ◆小谷田照代先生が選んだ本



もしも原子がみえたら  
いなば 聖宣  
板倉書店 2008年

「いたずらはかせのかがくの本」の新版で、難しい分子の世界を子どもにわかりやすく説明した科学絵本です。

「この宇宙のすべてのもは原子でできている」って本当？ じゃあ、この紙も？ 石も？ 水も？ ……それに、わたしの体も？ と問いかけながら、話が進みます。学年を問わずに楽しめる構成になっています。巻末には分子グッズもあり、見るだけで分子の世界のぞいた気分になれるでしょう。



自分を育てるのは自分  
東井義雄  
東井義雄出版 2008年

著名な教育者、東井先生が、一九八〇、八一年に行った講演会をまとめた本です。絶版となっていたものが再び

版されました。子ども向けに語られていますので、文章はとても平易ですが、どう自分の人生を生きるかについて静かに考える時間を与えてくれます。卒業を控えた六年生や中学三年生へ紹介すると、心に響く本となると思います。

特集の原稿をご執筆いただいた先生方に、最近出たおすすめの本を紹介していただきました。

## ◆宮脇康一先生が選んだ本



ぼくのかえりみち  
ひがしちから  
BL出版 2008年

表紙を見て、

白い線や歩道の縁石の上を歩く何人もの子どもの顔が目には浮かびました。中を開いて一番共感

したのは、横断歩道を断崖絶壁に見立て、勇敢に越えていく姿です。いつの間にか応援する気持ちになっていました。同じ断崖絶壁でも、ゴール周辺の絶望感をみごとに表現した絵にも脱帽です。ちなみに、冒頭で浮かんだ顔の中には、自分の顔も見えました。今もときどきあんなふうには…というのはいしよです。



霧の森となぞの声  
岡田淳  
理論社 2009年

「こそあどの

森」シリーズの最新刊です。岡田さんの本はどれも好きですが、そのきっかけの一つでもありま

す。何より好きなところは、シリーズ中に張り巡らされた「リンク」です。どれを読んでも、以前の巻を読み返したくなります。読み返すとより深く理解できます。何度読んでもおもしろいからこそできるのです。子どもたちに、伏線や文脈のおもしろさが自然に伝わる名著でもあります。

## ◆渡辺暢恵先生が選んだ本



ルリユールおじさん  
いせひでこ  
理論社 2006年

ルリユールとは、フラ

ンスの本造りの職人のことです。少女ソフイーは、大好きな図鑑がバラバラになってしまい、ルリユールおじさんを探し出します。図鑑に出てくるアカシアの木はソフイーのお気に入り。そのおしゃべりを聞いて、年老いた職人はすてきなはからいをしてくれます。専門の道具を使って、手仕事でひとつずつの工程を丁寧にこなす様子が、きれいな絵で描かれていて魅力的です。本の大切さをあらためて思い起こさせる一冊です。



シートン伝記  
藤原英司・文  
熊谷英集 2008年

シートンの物

語は、『オオカミ王ロボ』『灰色グマ、ワーブの一生』など、世代を超えて読み継がれていま

すが、作者については、物語ほど知られていません。この本は自然を愛した彼の生涯を、物語の訳者でもある著者が、実際に住んでいた家を訪ねて書いています。シートンは動物だけではなく、アメリカの先住民の生き方も大切に尊敬して、実際に伝えていきます。小学校高学年に、物語とあわせて紹介してください。